

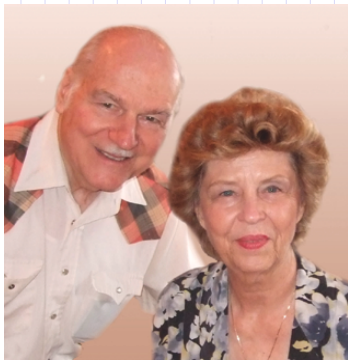
## World Prayer and Share Letter

終末的困難に直面する中、クリスチャンが神の超自然的な愛、恵み、そして、喜びの証しをすることができるように祈りましょう！

「2010年を始めるにあたって、私たちは、『主の喜び』が人間にとって必要なすべてのものの中で、最も貴重なものと思われる時代に入ろうとしています！ 現在、平安や喜びが不足しているように感じられます。なぜかと言いますと、世界中で起きているイスラムファシズムの行動の報道を聞き、全世界的な経済崩壊に直面し、中東が核戦争の瀬戸際にあると感じられるからです！しかしながら、朗報は、私たちが神の子供として、超自然的喜びの永遠の源に近づく手段を持っているということです！使徒パウロが石を投げられ、死んだ者として置き去りにされ、むちで打たれ、投獄され、難破する中で、「私は慰めに満たされ、どんな苦しみの中にあっても喜びに満ちあふれています」(IIコリント7:4)と書き記しました。パウロとシラスがピリピにおいて、背中を何度もむちで打たれ、投獄された時、余りにも大きな喜びを持って祈り、賛美の歌を歌ったので、看守と彼の家族は皆キリストに回心したのです！さらにパウロは、ピリピ4：4において次のように書きました。「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」他の人々は危機に直面する私たちの反応を見る時に、私たちの持っているものを自分たちも欲しいと思うのでしょうか？ 喜び(\*)というものは、私たちの環境や所有物から来るものではなく、私たちが、キリスト・イエスにあって、いと高き神に愛されている子供であるという知識から来るものです。ですから、祈り続け、救いの福音を語り続けましょう。御霊に導かれた祈りはこの世で最も強力なものであることを忘れないでください！ (\*喜びとは：いかなる状況にあっても、征服されないうれしさです！)

世界のための祈り

とりなし手の皆様へ



チャールズ&ダイアン・グリコ

賛美レポート!

中国とインドからのユダヤ人の失われた部族が「アリヤー」(イスラエルへの帰還)を達成！(1)

旧約聖書はユダヤ人が世界の四隅からイスラエルに帰還する日が来ることを預言しています。そして今、ユダヤ人は、世界で最も人口の多い二つの国、中国とインドからも帰還しているのです。ユダヤ人のイスラエル帰還を援助するグループ「シャヴェイ・イスラエル」のマイケル・フロインド氏は言います。「ゼカリヤ書8章で主はご自分の民を東の国々からも西の国々からも集めると約束しておられますが、この預言が私達の目の前で実現しているのです。」最近、4年近い官僚との争いの末、7人の中国系ユダヤ人男性が、中国の開封市からイスラエルに到着しました。歴史家によると、このユダヤ人共同体は1000年以上前から存在し、ペルシャ(イラク)から移り住んで来たと考えられています。(イスラエルに移住した中国人移民の一人、チャン・ランさんは、「神様はワシのようにご自分の民をイスラエルに連れ帰るということを教えてくれた祖母のことは今でも覚えていますが」と言いました。)更に3年前、失われた部族であるマナセ族を代表するユダヤ人グループがインドから、すでにイスラエルに移住した家族と合流しました。イスラエル帰還援助機関「シャヴェイ・イスラエル」によりますと、このグループはマナセ族の中から約束の地に帰還した最も大きいグループであり、インド北東部に存在していると思われるこのマナセ族から更に数千人がイスラエルに帰還する考えられています。シャヴェイ・イスラエルは、「隠されたユダヤ人」と言われるこのようなグループを、ポーランド、ロシア、スペイン、ポルトガル、および南米で確認しています。専門家は、2,000人のユダヤ人が現在中国に住んでいると見積もっていて、彼らの大部分がまた、イスラエルに来ることを望んでいます。マイケル・フロインド氏は、この世界的なユダヤ人の帰還を、「時のしるし！」と呼んでおり、「神様はご自分の民を集めており、これは神学的にも、歴史的にもとても重要な出来事です」と言っています。

(編集者注：神様に感謝し、賛美しましょう！主のみことばである聖書が真実であることを祝いましょう。主はみことばを守り、ご自分の民へのすべての約束を成就されます。私たちは神様を信じる異邦人として、キリストのものであるということを忘れないでください。ガラテヤ3:29を読んでください。「もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。」これは、アブラハム、イサク、ヤコブに約束されたのと同じ遺産と祝福に私たちもあずかるということを意味しています！)

(情報源)(1)(<http://www.cbn.com/cbnnews/insideisrael> 2009年11月)